

# The Hop Step Times

March 2023

## The Introduction of GROUP PRESENTATION (グループプレゼンテーション)

本プログラムは、通所者が職場を想定し、1か月間のグループワークを通して、自身の思考やクセを見つけたり、終了後のフィードバックによって他者に指摘されることで、自己理解を深めるものである。

2月9日(木)、今回はほっぷと同じ上林記念病院内にある「児童・思春期デイケアJOY」(以下JOY)との合同プログラムの企画提案を考え、JOYスタッフを顧客としプレゼンを行った。結果は「足蹴りゴルフなど」を提案したグループの案が「採用」となった。

JOYスタッフからのフィードバックによると、「JOYは本当に受け身な子が多いのでコンセプトがマッチしていて良かった。」「一人ひとりのちょっとずつの参加で、最終的に協力プレイになりJOYでは普段出来ない大人との対決という点も良い。」といった理由で採用になったようだ。

また、選ばれなかったグループに関しても「来月以降順次オーダーさせていただきたい。」との言葉をいただき、企画提案として全体的に良いものになったように思う。

過程については終了後各グループ

リーダーにアンケートを取ったものを以下に紹介する。

グループの良かった点について聞いたところ、全てのグループで「JOYのお子様楽しんで頂ける企画を実現しようと考えた事」が挙げられた。顧客の求めていることを考え、それを形にしようとしたことが今回のJOYスタッフからのポジティブな反応を得られる結果につながったと考えられる。

一方で各グループの反省点も見られた。採用されたグループも順調だったわけではなく、上司役のほっぷスタッフからは「一番動きが遅く、もっと全員でやれることがあったのではないか。」とフィードバックを受けた。

確かに該当グループのアンケートでは、「最初にJOYのお子様を考えて企画を練ったが、企画の構想過程で細かい内容に集中してしまい、上司への1回目の提案時に薄っぺらい内容になってしまった。」ことを反省点に挙げていた。

結果的に採用にはなったが、かなりギリギリでの企画提案となり、運で選ばれた部分があったことは否めないとの振り返りがあった。



上写真：プレゼン風景

今回のプログラムを通して、相手を満足させるためには、相手の視点に立って考えることが大切であると共に、それがいかに難しいかということも痛感する1か月になった。

課題を達成しようとする中で自身の思考のクセが出てしまい、良くな

い方向に進んでしまった人もいた。また、そのクセを知りつつも違う行動を試み、それによって良い方向に進めた人もいた。

それぞれが大切な経験としてこれからの職場復帰へ向けたほっぷでの生活に活かせればと思っている。

## This Month's "SATORI" (今月のサトリ(気づき))

今回は1月26日(木)に実施されたプログラム「ホームルーム(以下HR)」について取り上げる。本プログラムは、ほっぷスタッフがプログラムに介入せず、通所者だけでHR中に何をやるかを話し合いで決めるプログラムである。ほっぷスタッフが介入しないことで、通所者の主体性を伸ばすことが目的である。

当日に実施された本プログラムは、「HRのあり方について」というテーマで、今一度通所者のみで話し合った内容となった。

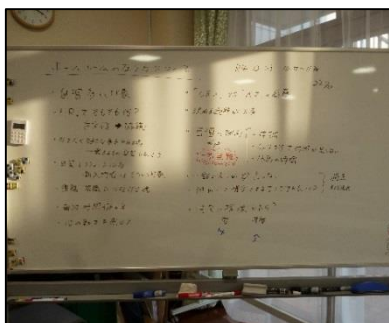
先ず事の発端は、過去の本プログラムの内容の候補に自習が多いことである。通所者全員で話し合う為、やりたい意見が多くなり、内容が決まりにくい。妥協案として2つの案を同時に行う形を取っていた延長線上で皆が好きなことをやれる結果が自習となっていた。

しかし、あまりに自習が多いため、「主体性を伸ばす」という本プログラムの本来の目的が失われつつあった。「今一度その目的を見つめなおそう。」と言う経緯である。

話し合いは、4つのグループに分けて行われた。各グループで本プログラムの印象や目的意識、改善点を挙げていった。取り上げられた内容は、「HRの定義や目的を定めた方がいいのでは。」「内容を決める過程が大

事。」といった意見や、「復職、再就職の足がかりにこだわらなくてもいいのではないか。」「コミュニケーション力の向上を目的にしてもいいのではないか。」「HRは話し合いの内容が重く意見を出しにくい。」などの意見もあった。結局、今回の議題は結論に至っておらず、次回以降に持ち越しとなった。

今回のような議題は過去にも挙がったことがある。当時は本プログラムがレクリエーションをする時間となっていることに疑問を投げかける通所者がいた(本紙創刊号参照)。通所者一人ひとりが何らかの考えを持ち、主張した上でみんなの意見を聞き、同意を求めるような行動をすることが主体性なのではなからうか。今回のような議題が再度起こらないことを祈るばかりである。



上写真：プログラムのまとめ一例

## The Message from Graduate Mr.A (卒業生A氏からのメッセージ)

本紙は某日、A氏にアンケートを実施した。A氏は約1年2ヵ月間通所したほっぷを卒業し、昨年12月に復職を果たしたメンバーである。本記事ではアンケートやご本人へのヒアリングから、以下を抜粋し紹介する。

Q1.あなたにとって良かったプログラムを教えてください。

A1.1番目「アサーション×SST」

対人関係における対処方法や行動の選択肢選定などの改善に役立った。

2番目「OT集団作業」

多人数での作業を達成させるために様々な個人能力を発揮することでマネジメント力向上に役立った。

3番目「グループプレゼン」

通常の短期プログラムとは異なる内容を長期に渡り、完成させるまでの道のりにて、様々な課題解決を図っていくことでの決断力向上に役立った。

Q2.ほっぷ通所前と現在で、変わったと思う自分の行動や考え方、気付いたこと等あれば教えてください。

A2.通所前はある程度、即決即断にて対応することがベストだと考え行動していたが、今は一旦立ち止まって考え、選択肢を揃えた上で行動するパターンが根付いてきたこと、「少し廻り道をした方が、良い結果

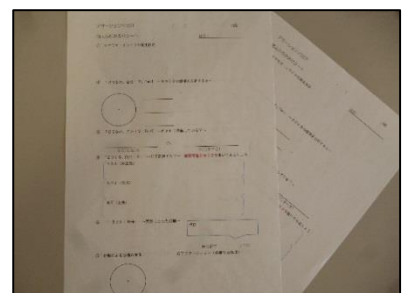
を得ることが多い」と考えられるようになった。

Q3.通所しているメンバーにメッセージをお願いします。

A3.自分自身の課題を克服するための手段は数多くありますので、焦らずにコツコツと進めて行ってください。

自身の社会経験の豊かさから、多くのほっぷ通所者より相談事を受ける頼もしいA氏。全体を俯瞰して見ることが出来る視点を持ち、ほっぷのご意見番的な役割を担ってくれる存在であった。会社生活では、対人関係もドライであり、成果を求める仕事ぶりであったそうだが、自身本来の仮面を脱ぎ捨て、自身本来のムードメーカー的な雰囲気や周りに優しく声を掛ける姿が出てくるようになった。

A氏が、復職先においても、自身本来の姿のまま、のびのびと活躍していくことを願う。



上写真：アサーション×SST記載シート